

## 自然保育推進事業 活動報告書

### 1 団体名 広島大学附属幼稚園

### 2 今年度の活動概要

#### (1) 環境構成に関すること

東広島市の中央に位置する本園は、園舎の裏に「たんけんの森」(陣が平山)があり、「森の幼稚園」(図1)として、子どもたち、保護者の皆様から親しまれています。そのたんけんの森で子どもたちは、自然を活かした遊具で遊んだり、森の中を探検したり、自然物を使って試行錯誤しながら作って遊んだりするなど、日々遊びを展開しています。森には当然、高い場所や急斜面があり、少々“危ない”と思うような場所もありますが、そのような場所を危険回避のために造成するのではなく、自然のありのままの地形を残すようにしています。それにより、子どもたちが“登ってみたい”と思った森にある急斜面に対して真剣な表情で黙々と登る姿、自分たちの力を出し切らないと“急斜面は登れない”ということを感じ取っている様子などが見られました。このような子どもたちの姿、“どうしても登りたい”という気持ちを、急斜面という自然が引き出しているように感じます。また、子どもによっては、急斜面が登れず滑り落ちる時もありましたが、それでも立ち直り登っていきこうとする姿も見られました(詳細は事例を参照)。

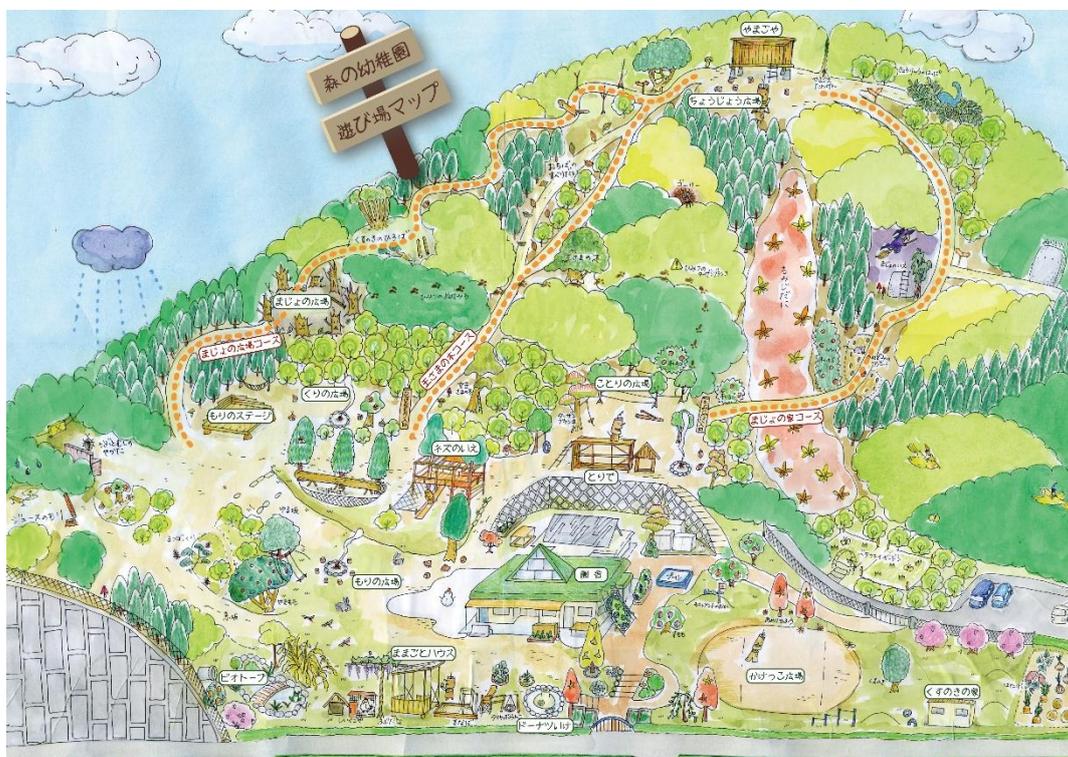


図1 森の幼稚園 遊び場マップ

## (2) 特に印象的だった遊びの事例に関すること

### 【3歳児 森の滑り台】

数人で急斜面を登り、そこから滑ることを楽しんだ日が何日か続いていた。その日も「滑り台したい!」という声が上がリ、10人くらい的人数で急斜面の近くまで来ていた。

「滑り台しよう」と張り切っていた子どもも、暗がりに入っ少し緊張気味に子どもも、急斜面を目の前にすると口数が減り、黙々と登り始めた。この急斜面は子どもたちにとって、足腰だけではなく手も使わないと登ることが難しい。子どもたちは目の斜面に一生懸命に、真剣な表情で足をかけ、手を使い、全身登っている。

一部の子もたちはすぐに登り切って、私と一緒にしゃがみ込んでまだ登れていない子どもたちを見つめる。自然と「がんばー!」と大声で言ったり、「ここ!ここにつかまって!」と木を差し出したり、つかまったらいい場所を教えたりする姿がある。手助けしようと手を差し伸べた子が登れていない子に引っ張られて、ずるずると落ちてしまう。だからといって相手を責めたり怒ったりすることはない。また、もう一度前を向いて登ってくる。

私はその姿を見守りながら、子どもたちが上がってくるのを待つ。私が手を引っ張ったり、手助けしたりしなくても、子どもたち同士で助け合ったり、自分の力を発揮したりしながら登ることができた。登り切れた子は嬉しくて、私とハイタッチしたりハグをしたりして嬉しさを分かち合う。

みんなが登り切ると、A男が「滑り台しよ」と私に言う。それを聞いて、子どもたちも自然と滑り始める。急斜面だから、勢いよく滑ることができる。「きゃー!!」と歓声を上げて降りていた。5~6人程度で体をひっつけ合いながら、急斜面を降りる姿も見られる。どの子も嬉しそうに、満足そうに急斜面を滑って降りていった。



て  
け  
前  
で  
込  
れ



## (3) その他、自然体験活動の充実に向けて取り組んだこと

本園では、自然体験活動に関するワークショップや森を生かした保育を公開する幼児教育研究会を年3回開催しています。

### 1) 第1回 ワークショップ (7月3日)

『自然を使った保育の意味』



### 2) 研究大会 (10月30日)

『持続可能な社会の担い手となるために、その基盤となる態度や資質・能力を明らかにし、「自然とのつながり」と「人とのつながり」の直接体験を通してそれらを育成する幼児期の教育課程の開発』



### 3) 第2回 ワークショップ (12月20日)

『子どもが自ら育つ園庭開放～大人に必要な3つの安心感から～』



幼児教育に携わるたくさんの先生方にご参会いただき、幼児期における自然体験の重要性、森で行う保育のあり方を学んでいただきました。